活用の検討経過

学校名		旧　　黒川　　小　学校
廃校年月		平成　9　年　3　月
検討開始の背景	検討の開始時期	平成　28　年　4　月
	検討開始の契機	☑ 政策方針　☑ 地域要望　☐ 財政負担軽減 ☐ その他　（　　）
	廃校時点の課題	☑ 管理コスト　☑ 老朽化　☐ 防犯 ☐ その他　（　　）
検討体制	検討主体	☑ 庁内　☐ 外部検討会　☐ 民間委託
	庁内部署の関与	☐ 総務･財政･管財　☑ 企画　☐ 商工･観光 ☐ 健康･福祉　☑ 教育･文化　☐ 公民連携 ☐ その他　（　　）
	外部専門家等	☑ 有り　☐ 無し
検討プロセス	検討期間 （開始～決定）	約　2　年
	検討した活用案	旧黒川小学校体育館をメインの遊び場としたおもちゃ美術館の開設
	検討の主なステップ	2016年に木の文化を大切にし木の産業を振興するため、「木育」を推進すべく「東京おもちゃ美術館」と共に生まれた時からこどもが木の文化に触れる機会を増やす「ウッドスタート宣言」を行い、町で生まれた子への誕生祝品として木曽町の職人が木曽の木で作るおもちゃをプレゼントする事業を行ってきた。この「木育」推進の集大成としておもちゃ美術館構想をスタートした。 2019年基本構想を実施し、翌2020年には基本設計・実施設計に着手、2021年改築工事を実施した。この間併せて、各種人材育成メニューを行い、ハード・ソフト両面から開館に向けた整備を行った

	最終的な活用案に至った理由	東京おもちゃ美術館の姉妹館が全国に誕生する中、他のおもちゃ美術館との差別化「木曽らしさ」を追求し観光・多世代交流・木工振興を柱とした木曽おもちゃ美術館設立にあたり、アクセス、施設のサイズ、施設のデザイン的評価、既存運営コンテンツ（体験メニュー）などからシナジーを創出することが期待でき「旧黒川小学校」施設を活用することにした。
	検討過程での課題や苦労した点	メインの遊び場として活用を予定した体育館施設の老朽が著しく耐震補強が必要となったこと
地域住民等の意見の把握・反映	住民への情報提供	☑ 広報　☑ 説明会　☑ 回覧等 ☐ その他　（　）
	意見収集の方法	☑ 説明会　☐ ワークショップ　☑ アンケート ☑ その他　（　移動おもちゃ美術館・各種養成講座　）
	参加者の範囲	☑ 地域住民　☑ 卒業生　☑ 関係団体 ☐ その他　（　）
	主な意見・要望の内容	全天候型のあそび場がほしい 木曽町におもちゃ美術館を誘致してほしい 黒川小学校（建物）を残してほしい
	意見に対する対応	説明会や議会、人材育成講座などのアンケート結果を踏まえて、運営・施設整備において意見の反映を行った
	合意形成において工夫した点	おもちゃ美術館構想への住民意見は肯定的な意見が多かったため、理解をより深めるために「移動おもちゃ美術館」を旧黒川小学校体育館で実施し、併せて人材育成「木育インストラクター養成講座」「おもちゃ学芸員養成講座」などを開催し地域住民の納得感や館運営への協力体制を構築したこと

公共施設として転用	公共施設での活用を選択した理由	地域の象徴である小学校の建物を残してほしいという願いがあったことや既存の未利用施設の有効活用ができるため
	運営形態	☐ 直営　☑ 指定管理　☐ 委託 ☐ その他　（　）
	条件で重視した点	☐ 契約価格　☑ 活用形態　☐ 事業期間 ☐ その他　（　）